和歌山大学地域連携のあゆみ

経済学部教授／紀伊半島価値共創基幹プログラムオフィサー
足立 基浩

本稿では、2020年に和歌山大学に誕生した紀伊半島価値共創基幹の経緯とこれまでの和歌山大学の地域との連携について述べたいと思います。

私の専門分野はまちづくり、地方創生ですが、自分のゼミを持つようになった2000年、大学院時代を過ごしたイギリスの片田舎のケンブリッジ市で語学留学プログラムを組みました（3週間）。ゼミ生たちは、午前中は語学学校で英語を学び、午後からは現地でイギリス流のまちづくり、特に商店街の形に関する調査などを行いました。グローバル（海外的視点）でローカル（地方）を学ぶ、そんな3週間だったように思います（この2つをかけあわせた「グローカル」という言葉が今では良く使われています）。

帰国後の2000年の秋、和歌山市西高松の「和歌山大学生涯学習教育研究センター」にてこのイギリスでのこの「ケンブリッジ市の中心市街地」調査体験に関する発表をさせていただきました。この生涯学習教育研究センターは1998年に設置され、生涯学習を通じた官民連携の拠点としての役割を担っており、生涯学習分野はもちろん「地域連携」が一つの軸になっています。

同センターでの学生たちの発表はおかげさまで好評でした。会場に来られた市民の皆さんから「イギリスから見た和歌山の商店街への視点は面白い」、「こうした学生の研究発表の場をもっと設けてほしい」などのご意見をいただきました。

発表の場をいただいた「和歌山大学生涯学習教育研究センター」は2010 年からは「地域連携・生涯学習センター」と名称が変わり、地域連携が今まで以上に強調され、本学のみならず地域のまちづくりの拠点としての役割をより一層果たすようになりました。そして、この頃より、和歌山大学の「地域連携」の中心的組織、機関としての位置づけが、より明確になってきたように思います。この地域連携・生涯学習センターは地域連携の場としてはもってこいの場所でした。なぜなら、和歌山市西高松の松下会館内にその本部があったからです。

同センターでは、2000年、和歌山県と連携した「ヒューマンカレッジ（まちづくり講座（2002年からエンパワメントカレッジに名称変更））」が始まりました。これは月に一度の勉強会で、和歌山県と和歌山大学の協働で進め、私が講師役を務めさせていただきました（この講座は3年で終了しましたが、今でもメンバーと年に一度程度集まっています）。

この講座では、中心市街地活性化などをはじめ、いくつかのテーマについてワークショップを作り会員参加型の議論を行いました。

なかでも記憶にあるのが「行政、市民がそれぞれ考える和歌山市の中心市街地アンケート調査」というテーマの取り組みです。メンバーには、リタイアされた方、主婦、行政関係の方も一市民として加わり、みんなで和歌山のぶらくり丁商店街の活性化、

について研究を深めました。

当時（2001年）、和歌山市の商業の中心地ともいえる「丸正百貨店」が倒産し、市民の皆さんの多くは心の中にぽっかり穴が開いたような気分でした。

その後、行政や市民は様々な丸正百貨店の跡地利用方法を模索しますが、なかなかこれという案が浮かびません。しかし、このヒューマンカレッジの講座で「市民目線」で活性化の構想を練り、病院や学校、また商店街などを網羅する再生策を模索していたのです。最後にみんなで報告書をまとめました。

続いて「KOKÔ塾」について。

これは高校を主体とした、大学、地域が一体となった実践型学習の取り組みです。こちらも、もとはと言えば、地域連携・生涯学習センターでスタートした試みです。2001年に和歌山県立粉河高校（現在紀の川市）と和歌山大学、そして地元商工会や行政の皆さんと共に「協働」をモチーフにした学び場としてスタートしました。サイエンス分野、子育て分野、まちづくり分野、IT分野など様々なテーマがあり、粉河高校の主に1年生の希望者がどれかに入り、大学と共同で学びを深めます。2020年でちょうど20周年を迎えました。嬉しいことに、そのころ高校生だった生徒さんがその後大学に入り、教員になり、そして地元の高校に配置されそこでKOKÔ塾と連携をはじめる、という嬉しい「SDGs (Sustainable Development and Growth, 持続可能な取り組み)」の連鎖も始まりました。

最近、流行りの「SDGs」ですが、20年も前から教育分野で実践していたのです。

和歌山大学は、地域連携の一環として、その後南紀熊野サテライトや岸和田サテライトなどを立ち上げ、面的に幅の広い連携を模索することになりました。田辺周辺地区や岸和田地区で授業やゼミなども実施され、現地の皆様と協働のまちづくりも実施されるようになりました。

こうした地域と連携した生涯学習分野を包括し、地域活性化総合センターができ（2015年）、そして、さらに現在は包括的な地域連携の拠点を目指しリカレント講座なども充実させるべく紀伊半島価値共創基幹が立ち上がりました（2020年）。

振り返るに、思えば、生涯学習センターで地域と大学が結ばれ、その後大学が旗振り役になって市民の学びを促進するような事業が次々と立ち上がってきたように思います。人生100年といわれる時代のなかで、やはり学びは若者だけの特権ではないと思います（これは現在本学が進めているリカレント（社会人再教育）も同じです）。

「グローカル」「SDGs」「リカレント教育」など様々なテーマを深めつつある和歌山大学の地域貢献の取り組み。

まちづくりは、人づくり、が重要です。これからも、和歌山大学は地域とともに教育、そして研究を深めていきたいと思います。